

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 29 年度 第 4 回相模原市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)		資源循環部廃棄物政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 3 6 (直通)		
開催日時		平成 30 年 2 月 5 日 (月) 14 時 00 分 ~ 15 時 20 分		
開催場所		産業会館 4 階 中研修室		
出席者	委員	14 人 (別紙のとおり)		
	その他	- 人		
	事務局	20 人 (資源循環部長、廃棄物政策課長他 18 人)		
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数 1 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 家庭系廃棄物の減量化・資源化について ア 一般廃棄物処理基本計画体系図(案)について(資料 1・2) イ 食品ロス削減について(資料 3) ウ 市内スーパーのレジ袋削減等の取組について(資料 4) エ 不用品の情報交換ができる掲示板について(資料 5) オ その他 3 閉会			

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開会

2 議題

家庭系廃棄物の減量化・資源化について

各委員の意見から抜粋したものについて、フリーディスカッションを行った。

ア 一般廃棄物処理基本計画体系図(案)について

資料2の体系図案について、最上段に発生抑制(リフューズ)とあるが、実際に今取り組んでいることも記載してはどうか。

体系図案については、委員からの意見を詳細に記載している。
計画策定時は文言等を精査し、掲載する。

資料2において、排出抑制(リデュース)の項目に啓発用POPの設置とあるが、どういった内容が記載されているのか。

本庁舎の食堂において、食品ロス削減の啓発を行うため、三角柱の卓上広告を設置している。

資料2の整理方法について、周知啓発の中に、ごみ減量に関する啓発や外国人居住者に向けた啓発が混在しているため、分けるべきである。
今後、さらに意見が出てきた際には、体系図の見直しが必要ではないか。

資料2は体系図案である。
市民の方々にわかりやすい計画にするよう、今後も委員からの意見を基に整理を行う。

産業界ではQC(クオリティーコントロール)という考え方で物事を分析する。目的と手段の連鎖を用いて物事の解決策を導く系統図という手法に、資料2の体系図案を当てはめると、周知啓発の項目は4R(リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル)の方策に区分されるのではないか。

体系図案については、意見を参考に次回以降、検討する。

イ 食品ロス削減について

資料3について補足がある。

4ページの自治体の取組状況は、自治体の母数に注意してほしい。

例えば、(1)一般家庭における食品の食べ残し削減施策の実施状況において、4つ目の「エコクッキングコンテストなど発表の場の提供」は都道府県の実施率5%、44団体中2団体が実施している。

(2)一般家庭における食べ残し削減施策で効果があると感じられる施策において、実施している2団体が効果ありと回答しているので、100%になっているという意味である。

資料3の1ページにおいて、家庭ごみに占める生ごみの割合が33%ということだが、川崎市では1人1日当たりの生ごみの排出量を算出している。相模原市では1人1日当たりのごみ量を算出しているが、漠然としてイメージしづらい。生ごみの量を明確にした啓発を行ってはどうか。

市民の方々にわかりやすく伝えられるよう、意見を参考にする。

資料3のごみ質測定調査において、例えばキャベツがそのまま1個排出されていた場合、調理くずと手付かず食品どちらに分類しているのか。また、事業系廃棄物についても食品ロスの実態調査を行っているのか。

家庭ごみのごみ質測定調査について、野菜や果物を加工していない状態のものは手付かず食品に分類している。事業系の調査については平成28年度に実施しており、家庭ごみと同様に厨芥類の割合が最も多くなっている。

食品ロスとは直接関係無いが、環境に配慮した取組の一環として、汚れたお皿を不要な布等で拭いて捨てることもあるため、本来リサイクルできる布が汚れてしまうことでリサイクルできなくなってしまう。こうした板ばさみをどうすべきなのか。

○汚れているプラ製容器包装は一般ごみになってしまうが、資源として排出するために洗うことで汚水が発生するなど、相反する事例がある。
どこかに重点を置くと手薄になる部分があり、個々人で一線を引くものと考えている。

○環境問題のジレンマについては、しばしば起こりうるもので、環境のどこに余力があるのかは地域によって異なるため、回答は1つに決められないと考える。

ウ 市内スーパーのレジ袋削減等の取組について

○野菜くずの飼料化は非常に良い試みである。
レジ袋の削減については、ほとんどの食品スーパーで実施しており、利用する消費者にも浸透している。

エ 不用品の情報交換ができる掲示板について

○自治会でもホームページ上で不要品の情報交換を行ったが、成立件数が少なく、中止した経緯がある。情報量の増加に伴い、利用者の増加も見込まれ、良い仕組みになるのではないか。

○市では、リサイクルスクエアにおいて粗大ごみのリユース品販売を行っていると思うが、そのことについて、さらに周知してはいかがか。

麻溝台と橋本台の両リサイクルスクエアで粗大ごみのリユース品を展示・譲渡している。

両スクエア合わせて毎月60点程度を300円から1,000円で譲渡しているが、応募倍率は平均10倍という状況である。

○リサイクルスクエアでのリユース品について、あまりに低価格で譲渡することは、受け取った市民が容易に処分してしまう動機にもなる。
また、地域の祭り等でバザーを行うこともあるが、低価格での出品は転売される懸念があり、価格設定についてはそういったことも考慮する必要がある。

○不要品の情報交換掲示板が必要という議題になったのはどういった経緯か。
また、資料の実施例は神奈川県内もしくは全国の事例か。

不用品の WEB 掲示板の作成については、委員からの提案を基に、議題として取り上げたものである。資料の実施例は近隣市、特に民間との協力を独自に行っている自治体について説明したものである。

○リユースについては、個人での仕組みづくりがインターネット等を中心に構築されつつあるため、行政主導での実施について深く検討する必要性を感じない。

3 閉会

相模原市廃棄物減量等推進審議会委員名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	安西 優花	公募		欠席
2	安藤 正義	相模原市老人クラブ連合会		出席
3	五十嵐 道夫	相模原商工会議所	職務代理者	出席
4	池田 珠三子	さがみはら消費者の会		出席
5	猪俣 聡	神奈川県立学校長会議 相模原地区会議		欠席
6	内山 尚美	さがみはらリサイクル連絡会		出席
7	王 文聡	公募		欠席
8	大河内 由美子	麻布大学		出席
9	大矢 敏	公募		出席
10	河本 博	相模原市廃棄物減量等代表推進員		欠席
11	菅野 泰男	相模原市子ども会育成連絡協議会		出席
12	小清水 忠雄	相模原市農業協同組合		欠席
13	坂本 堯則	相模原市自治会連合会	会長	出席
14	成井 マユミ	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら		欠席
15	原 正弘	神奈川県県央地区廃棄物処理業協議会		出席
16	藤倉 まなみ	桜美林大学		出席
17	不破 薫	相模原廃棄物対策協議会		出席
18	本田 泰章	津久井地域不法投棄防止協議会		出席
19	三須 城太郎	相模原地域連合		出席
20	宮津 敏信	公募		出席